

神庭の空

校長通信〈No. 4〉

平成24年11月30日

木枯らし1号が吹き、いよいよ年の瀬が近づいてきました。

26日のPTAのバザーは、たくさんの方にご来場いただきました。あいにくの空模様でしたが、今までの実績もあり来校される方も多く、中原養護学校のことを地域の方に知っていただく機会になっているように思います。

バザー会場にはたくさんの品物が集まり、子どもたちの遊びコーナーも設置されていました。私も子どもたちに混じり、おもちゃを探し、おでん・クッキー・パンなどの食料品や手作り品をいくつか購入しました。子どもたちもお財布を片手に順番の列に並び、ゲームや買い物を体験していました。「どれにする？」と先生と相談しながら品定めをしている姿をあちこちで見受けました。あとから先生たちから教えてもらったのですが、子どもたちが選んだ品物をお家に持ち帰ると、その品物をご家庭からの献品だったことがあるそうです。ご家庭で手作りされたものやご家庭の品物であることを子どもたちはキャッチし、自然とその品物に心が惹かれるのかもしれません。不思議です。

長い期間をかけてご準備をいただき、ありがとうございます。保護者の皆様のご協力とご支援に、心から感謝申し上げます。

11月には、秋の祭典もありました。

たくさんの方にご来校いただき、大変嬉しく思います。私にとっては久しぶりの中原養護の「秋の祭典」でしたが、児童生徒一人ひとりのステージ発表に心が奪われました。スポットライトを受けいきいきと活動する様子に、会場からは大きな拍手がおくられ、音楽やダンスを通して喜びや楽しさを分かち合い、それぞれが達成感や成就感を感じた「秋の祭典」になったのではないのでしょうか。

「ショータイム」は観客を日常から夢の世界に運んでくれますが、中原養護学校のステージも、演じる子どもたちの楽しそうな様子や真剣な表情が、観客を「幸せ」にしてくれます。子どもたちがいつも通りに演じられるように、あちこちから声援がかかり、パワーになって届いています。まさに観客とステージが一体となって創り上げている舞台です。終わったばかりではありますが、既に翌年の公演が楽しみでもあります。

クラスで工夫していただいた「ワンダーランド」には参加できず残念でしたが、参加された皆様はいかがでしたか。

「中原ミュージアム」の作品展示や、高等部の作業学習の製品販売の様子は見る事ができました。買った製品は、校長室でいくつか使用しております。校長室にも少しずつ中原養護の子どもたちの作品を展示していこうと考えています。お楽しみに！！

「ほっとタイム in 校長室」

急な企画にもかかわらず、「ほっとタイム in 校長室」に参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございます。10月30日の肢体不自由教育部門の会には12名、11月1日の知的障害教育部門には分教室を含め7名の方が参加されました。不定期ですがこれからも続けて開催しますので、今回ご都合がつかなかった方も、次回からお気軽に参加いただけるとうれしいです。お待ちしております。

校長通信で様子をお伝えすることになっておりましたが、発行が遅れました。気軽に保護者同士の話をしようと思われた方から、ここはぜひ学校側に伝えたい等、参加された方の想いは様々でしたが、子どもたちへの暖かい愛情と学校への期待や想いが感じられました。互いに情報を共有し、互いの状況を知り合う良い機会になったと思います。いくつか、いただいたお話をご紹介します。

- 修学旅行・授業・校外学習に工夫がほしい
- 個別教育計画が練られていない
- 緊急時用にスクールバスに水・食料・毛布を常備してほしい
- 学部間の引継ぎ(せめて一人は継続してほしい)
- 伸び伸びした学校を選んで良かった。先輩保護者との勉強会がほしい
- ケアの懇談会ではオープンに同じ悩みを話すことができた
- 中学に比べ、教員に愛情を持って対応してもらっている
- 保護者同士の関わりが少ない 関わりがあると良い
- 本校と分教室の連携のあり方
- 専門職(自立活動担当教諭)との相談で保護者も支えられている
- 非常食として何を持たせてよいかわからない。水を含め一括購入できないか。
緊急時に個別対応の食料は、余計に手間取るのではないか
- 進路の方向が一致しても、進路先の入所状況が厳しいことが心配
- ゆっくり就労移行支援を考えたい などなどです。

子どもたちの成長をどう支えるか、子どもたちの「今まで」「現在」そして「これから」など様々な視点で話が進み、なるほどと思ったり、説明不足もあるなど感じたり、お聞きしながら私自身もいろいろなことを考えさせられました。これからも保護者の皆様との「顔を合わせた対話」を大切にしながら、この会を今後の学校経営に活かしていきたいと思えます。

校長室のレイアウトを少し変更したのですが、それに気づいていただいた方もいらしてうれしく思いました。私自身が、中原養護学校の子どもたちのことを少しずつ覚えているところですが、この機会に保護者の方の顔も覚えていきたいと考えております。あまり構えずに自然体で、子どもたちの豊かな学校生活と地域生活のために、これからも学校と保護者が協力しあえるように、できるところから取り組んでいきたいと考えています。よろしくお願ひします。